

世界銀行東京事務所 ニュースレター

2021年9月号



最近の取り組み

世界銀行と日本がベトナムで草の根レベルの感染症予防態勢強化を支援

8月25日、世界銀行とベトナム社会開発研究所は、「ベトナム草の根レベルの新型コロナウイルス感染症予防・対応強化」プロジェクトに対して、日本社会開発基金（JSDF）によるグラント支援に関する合意書に署名しました。

気候変動により 2050年までに2億1,600万人が国内移住を余儀なくされる恐れ

9月13日に発表された報告書「大きなうねり」では、移住の強力な原動力となっている気候変動が原因で、2050年までに世界の6地域で2億1,600万人が国内移住を余儀なくされる懸念があるとしています。

財務局「インパクトレポート2020」日本語版を発表

世界銀行は、サステナブル・ディベロップメント・ボンド及びグリーンボンドと、これらの債券が支援するプロジェクトに焦点を当てた報告書「インパクトレポート2020」日本語版を発表しました。成果のハイライト、発行概要、融資承認額・融資実行済額や新たなプロジェクト事例をご紹介します。

プロジェクト紹介

- ラオス：基礎教育改善による人的資本への投資（8月6日開始、IDAと教育のためのグローバルパートナーシップ（GPE）からのグラントを含む4,700万ドル）
- リベリア：水産セクターの改善（9月22日承認、IDAからの資金を含む4,000万ドル）

セミナー情報

グローバル・ラウンドテーブル：世界銀行におけるキャリア形成と日本人への期待 (2021年9月22日)

海外の大学院に在籍中の日本人学生、及び大学院留学経験者を対象として、世界銀行での業務やキャリア形成についてご紹介するため、バーチャル・キャリアイベントを開催しました。冒頭、アネット・ディクソン世界銀行グループ人事担当副総裁が挨拶し、人事担当者からリクルートミッションの採用情報の説明を行いました。

2021年世界銀行グループ リクルートミッション 説明セミナー（質疑応答）」 (2021年9月27日)

現在募集中のリクルートミッションの対象となる世界銀行の13ポストに応募を検討されている皆様から事前にいただいた質問にお答えするセミナーを開催しました。

採用情報

2021年 世界銀行グループ リクルートミッション（10月1日締切）

世界銀行グループでは、2010年からほぼ毎年、日本人を対象としたリクルートミッションを日本に派遣しており、10回目を数える今年もまた、高い専門性と十分な実務経験を兼ね備えた人材を募集しています。

日本人職員紹介



近藤沙千子 環境自然資源管理グローバル・プラクティス 自然資源管理専門官

2011年より世界銀行勤務。佐賀県生まれ。東京大学農学部国際開発農学専修卒、政策研究大学院大学国際開発研究修士課程修了。大学院修了後、コンサルタント会社に勤務し、国内の農村開発事業に約2年、海外の農村開発事業に約6年半従事。

東京防災ハブの活動

アルメニア、キルギス共和国、タジキスタンとの協力

山岳地帯の多いアルメニアやキルギス共和国、タジキスタンは、地震リスクが高く、防災能力の強化が課題です。多くの国・地域の参考となるよう、日本—世銀防災プログラムは、日本の防災訓練に関する知見や取り組みをまとめた報告書、「日本の防災訓練に学ぶ」を2016年に発表しました。同年9月にアルメニア、キルギス共和国、タジキスタンの政府代表団が来日し、日本の関係省庁や地方自治体担当者を訪問した他、さいたま市で開催された第36回九都県市合同防災訓練と東京都による防災訓練にも参加しました。また、東京都文京区のSYM3町会災害連合会を訪問し、住民主体のコミュニティ防災活動を学んだ他、神戸市の舞子高等学校を訪問し、コミュニティの若いリーダーを育成するという独自の取り組みについて学びました。こうした交流の結果、キルギス共和国では2018年10月5日に「国家防災の日」が制定され、日本のコンサルタントも参加して数週間にわたり全国で防災訓練が行われました。今年も10月5日に非常事態省の防災訓練が予定されています。タジキスタンやアルメニアでも同様に、「防災の日」制定に向けた動きが広がっています。



東京開発ラーニングセンター（TDLC）の活動

セミナー「クリエイティブ都市イベントシリーズ #1:『都市、文化、創造性』レポート発表」（2021年9月16日）

クリエイティブ・コミュニティを活用して新型コロナウイルス感染症後の都市をどのように再考することができるかについて、世界銀行と国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の専門家を招き議論しました。当日は、世界の都市の変容におけるクリエイティブ・コミュニティの影響を分析している専門家を交え、都市、文化、創造性の枠組みや関係性についてオープンな議論を展開しました。

G20 地域インフラ投資に関するハイレベル会議（2021年9月27日）

G20参加国のインフラ整備において、各自治体の様々な視点を取り入れ、ボトムアップ型の解決策をさぐる一助とすべく、富山市が事例として紹介されました。TDLCの都市連携プログラム（CPP）に参加している同市のコンパクトシティ政策とその効果について、藤井裕久富山市長が講演を行いました。

編集後記

日本が世界銀行から貸出を受けたプロジェクト

1965年9月10日、阪神高速道路公団に対し、神戸市高速道路1号（東灘区～須磨区、延長17キロ）の建設に対する2500万ドルの貸出の調印が行われました。

（編集：世界銀行東京事務所 開 裕香子）